

令和6年度 住生活基本計画推進部会の進め方

- 議論対象
- 第3回大阪府住生活審議会でのご意見
- 部会での議論の進め方
- 2050年の大阪の住まい・暮らしのあるべき姿
とりまとめの方向性

令和6年7月29日

令和6年度 第1回 住生活基本計画推進部会 資料

議論対象

大阪の住まい・くらしを取り巻く
現状、今後の潮流

を踏まえて

今年度の部会にて議論

めざすべき将来像
「2050年の大阪の住まい・くらしのあるべき姿」

第3回 住生活審議会 (7/1)

ご意見いただいた 重要な視点・キーワード

プロセス

R6年度

現在の大阪

どんな大阪を
めざすべきか？

めざすべき将来像
「2050年の大阪の住まい・くらしの
あるべき姿」

実現するためには
どんな取組が必要か？

実現に向けた
具体的な取組の方向性

施策の検討

計画策定

第3回大阪府住生活審議会でのご意見

○2050年の大阪の住まい・くらしのあるべき姿を議論する上で重要な視点・キーワード

現在の課題に係るご意見

- ・分譲マンションの老朽化に対して、定期借地を導入するなど、将来のまちづくりを見据えた仕組みの検討が必要
- ・ZEH水準に達していない住宅が未だ生産されていることから、既存ストックが負の遺産となる可能性があり、将来を展望する上で課題と認識すべき
- ・住宅ストックが余る社会において、空き家の利活用と居住の安定確保を連動させて考えるべき
- ・公的賃貸住宅のあり方について、民間賃貸住宅による補完が可能なのか、しっかり検証すべき
- ・労働力不足が確実に進む状況において、住まいの分野でも住み手側が当事者となる必要がでてくるのではないかと

第3回大阪府住生活審議会でのご意見

○2050年の大阪の住まい・暮らしのあるべき姿を議論する上で重要な視点・キーワード

将来展望に係るご意見

- ・大阪・関西万博での取組み（ヘルスケアなど）の具現化も検討してはどうか
- ・大阪・関西万博に係る情報発信を有効に活用すべき
- ・今後、若年世帯が住宅を買うのか借りるのかといったことも展望し、住宅が所有から利用への転換が進むのか議論が必要
- ・シェアリングについて、欲しい人と提供する人とがつながるプラットフォームが重要となるように、データに関するシステムのプラットフォームだけでなく、人が集まる場所のプラットフォームを意識した議論が必要
- ・情報のシェアの仕方として、ORDENのようなシステムの共通化を図り、情報を必要とする方に提供できるようにしていくことが重要
- ・大阪が魅力ある都市に高め、外国人人材、特に生産性の高い仕事に就く方々が大阪に住んでもらえるようになることで、将来の大阪の成長性につながってくるのではないかと
- ・アジアから大阪に投資したり、居住環境を求められたりすることで、将来の大阪が何で稼いでいくのか、居住環境がどう変わっていくのかを議論しても良いのではないかと

第3回大阪府住生活審議会でのご意見

○2050年の大阪の住まい・くらしのあるべき姿を議論する上で重要な視点・キーワード

全体に係るご意見

- ・ 将来像を議論する上で、安全・安心という観点は必要
- ・ 「すべての人」、「誰もが」住みよいという話の中で、誰がそのような状況を楽しんでいないかという観点での議論が必要
- ・ 現在の課題、特に安全・安心の目標達成状況を踏まえ、現在の施策の評価をしながら、将来の議論を行うべき
- ・ 大阪の包摂性みたいなものをどう発揮していくのかも必要な観点
- ・ あるべき姿を「支える仕組み」を議論する上で、共創の仕組みが重要
- ・ 「大阪における」あるべき姿を示すのであれば、地域特性に応じた議論も必要

部会での議論の進め方

国

S41年「住宅建設計画法」

住宅建設五箇年計画※：住宅建設戸数の目標を定める

H18年「住生活基本法」

住生活基本計画※：住生活の安定の確保及び向上の促進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために策定

※法定計画：法令によって策定が定められた行政計画

大阪府

～H8年 「大阪府住宅五か年計画」

H8年～ 「大阪府住宅マスタープラン」

(～H17：大阪府住宅五か年計画を包含 → H18～：大阪府住生活基本計画)

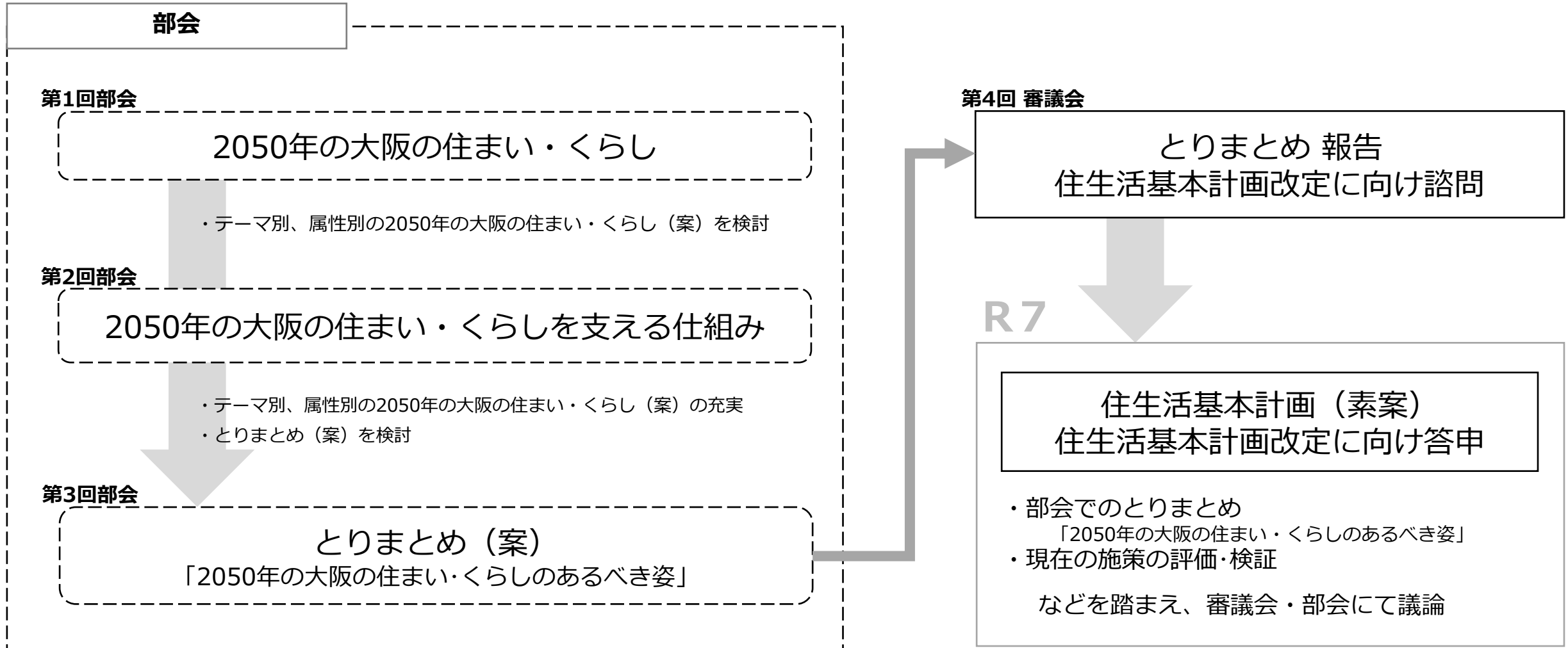
H28年～ 「住まうビジョン・大阪（大阪府住生活基本計画）」

現計画期間（R3.12～R12.12）

⇒ 計画期間を10年とし、概ね5年ごとに必要に応じて見直し

年度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
住生活審議会	住まうビジョン・大阪 改定	★ 進捗報告	★ 進捗報告 今後の進め方	★ 進捗報告 委員改選 進捗報告 部会設置 今後の進め方	★ 諮問	★ 中間とりまとめ	★ 答申	★ 計画(案)	住まうビジョン・大阪 改定			住まうビジョン・大阪 改定
住生活基本計画推進部会				部会 (めざすべき将来像) 3回程度	部会 (計画策定) 5回程度							
				※部会を常設								

部会での議論の進め方



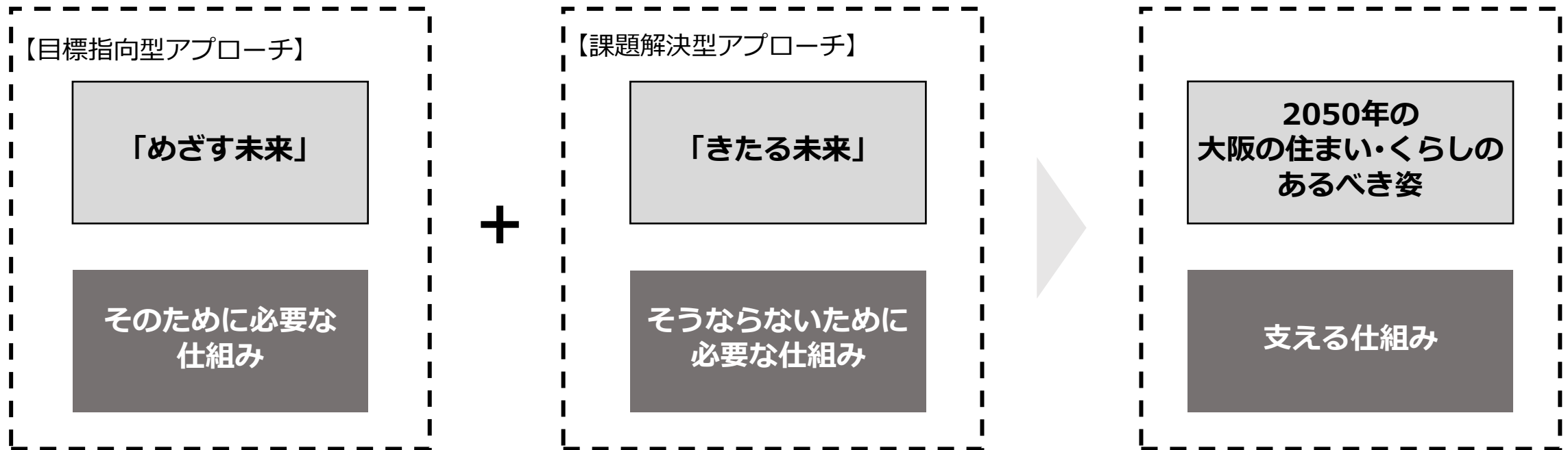
2050年の大阪の住まい・暮らしのあるべき姿 とりまとめの方向性

○構成イメージ

- はじめに
 - ・ 検討の目的、背景
- 大阪の住まい暮らしを取り巻く現状・今後の潮流と課題
 - ・ 空家、マンション、住宅確保要配慮者、カーボンニュートラル激甚化・頻発化する災害への備え、人材不足
 - ・ 人口減少、ライフスタイルの多様化、新技術デジタル化の進展
- 2050年の大阪の住まい・暮らしのあるべき姿
 - ・ より豊かな住まい暮らしを実現できる未来（「めざす未来」）とこのまま進めば否応なく訪れると想定される未来（「きたる未来」）により描くあるべき姿
- 取組の方向性

2050年の大阪の住まい・暮らしのあるべき姿 とりまとめの方向性

○2050年の大阪の住まい・暮らしのあるべき姿



「めざす未来」：より豊かな住まい・暮らしを実現できる未来

「きたる未来」：このまま進めば否応なく訪れると想定される未来